

山口県立山口博物館所蔵幕末維新関係資料ガイド 2

山 田 稔

Yamaguchi Prefectural Museum Collection of Bakumatsu Ishin related Document Guide 2

Minoru YAMADA

山口県立山口博物館研究報告

第45号(2019年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.45(March 2019)

山口県立山口博物館所蔵幕末維新関係資料ガイド 2

山田 稔¹⁾

Yamaguchi Prefectural Museum Collection of Bakumatsu Ishin related Document Guide 2

Minoru YAMADA

本稿は、明治150年を期に、山口県立山口博物館所蔵の幕末維新関係資料ガイドを意図して執筆したものである。前稿(『山口県立山口博物館研究報告第43号』(2017.3))に続き、展示や出版物掲載等で利用頻度が高い資料など31点を選び、図版付き解説を付した。



41 丸形古銅器

宝治元年(1247)6月5日の銘がある

1口

径18.4 910-23

毛利氏の始祖は、鎌倉幕府政所別当・大江広元の四男^{すえみつ}季光である。名字の「毛利」は、本貫地・相模国愛甲郡毛利荘(神奈川県厚木市および周辺)に由来する。

銘にある「宝治元年六月五日」は、季光が宝治合戦で戦死した日。幕末、長州藩の三浦半島警護で出張していた藩士粟屋虎之助嫡子・彦太郎が鎌倉で入手し、藩に献納し御宝蔵で保管されたもの。献納の経緯等を記した元治元年12月23日付けの黄紙文書が備わる。毛利家伝来品。

1) 山口県立山口博物館(歴史)

目 次

No	資料名	制作者	年代
41	丸形古銅器		宝治元年(1247)6月5日の銘がある
42	麻布籠土屋敷玄閔紋型		江戸時代
43	毛利敬親肖像	狩野松洲	明治時代
44	毛利敬親書「大成至聖文宣王」		幕末期
45	比金襖狩衣		幕末期
46	浅沓		幕末期
47	毛利敬親和歌		幕末期
48	毛利元徳肖像	狩野松洲	明治時代
49	毛利元徳書簡 木戸孝允宛		文久3年(1863)11月19日
50	毛利元徳和歌		明治時代(19世紀)
51	直垂		幕末期
52	感傷之言	吉田松陰	安政6年(1859)3～4月
53	吉田松陰肖像	田総百山	明治時代
54	言上書	吉田松陰	安政5年(1858)6月27日以前
55	柳菊図	松浦松洞	幕末期
56	松浦松洞書簡 久坂玄瑞宛		文久元年(1861)9月15日
57	長井雅楽弾劾建白書	久坂玄瑞	文久2年(1862)7月4日
58	一燈銭申合	久坂玄瑞	文久元年(1861)12月朔日
59	木戸孝允・吉川経幹写真	ウオルター・タルボット・カー撮影	慶応2年(1866)12月30日
60	毛利元徳・木戸孝允ほか写真	上野彦馬撮影	明治3年(1870)4月26日
61	毛利敬親山口新御屋形入居奉祝図 *	田原春耕	明治14年(1881)11月
62	周布政之助書付並びに詩画	周布政之助	文久3年(1863)8月10日
63	御盃 藤花小禽 *		安政6年(1859)12月16日下賜
64	周布政之助写真 *	亀谷徳次郎撮影(推定)	文久2年(1862)
65	周布政之助写真 *	亀谷徳次郎撮影(推定)	文久2年(1862)
66	周布政之助写真 *	亀谷徳次郎撮影(推定)	文久2年(1862)
67	都風流トコトンヤレ節		明治初期
68	井上馨写真	上野彦馬撮影	慶応年間(1865～68)
69	伊藤博文写真	上野彦馬撮影	慶応2年(1866)4月頃
70	伊藤博文所用金縁眼鏡		明治時代
71	肥長暴動記内萩大戦争之図	鈴木年基	明治10年(1877)2月1日

凡 例

- 一、記載項目は、資料名/筆者・制作者/制作年代/品質・形状/頁数/法量/整理番号/解説、の順である。
- 一、法量は、原則として本紙・本体のもので、単位は、センチメートルである。
- 一、*は、寄託資料。
- 一、人名は、時期による名乗りの違いや変名などがあるが、記述の煩雑を避け、一般に通用しているものを使用した。
- 一、掲載資料のうち、2015年NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」、明治150年記念特別展「激動の幕末 長州藩主毛利敬親」出品資料並びに『山口県文書館所蔵アーカイブズガイド―幕末維新編一』（山口県文書館）の解説は各図録に拠った。



42 麻布籠土屋敷玄関紋型

江戸時代

1口

27.3×23.8×5.5 910-22

江戸の長州藩下屋敷麻布邸の玄関飾りと伝わるもの。文様は、毛利家家紋の沢潟。毛利家伝来品。

麻布邸は、寛永13年(1636)3月、幕府から拝領し、当初青山邸、のち麻布邸と改称。元治元年(1864)7月、禁門の変の制裁として幕府に没収された。



43 毛利敬親像

狩野松洲

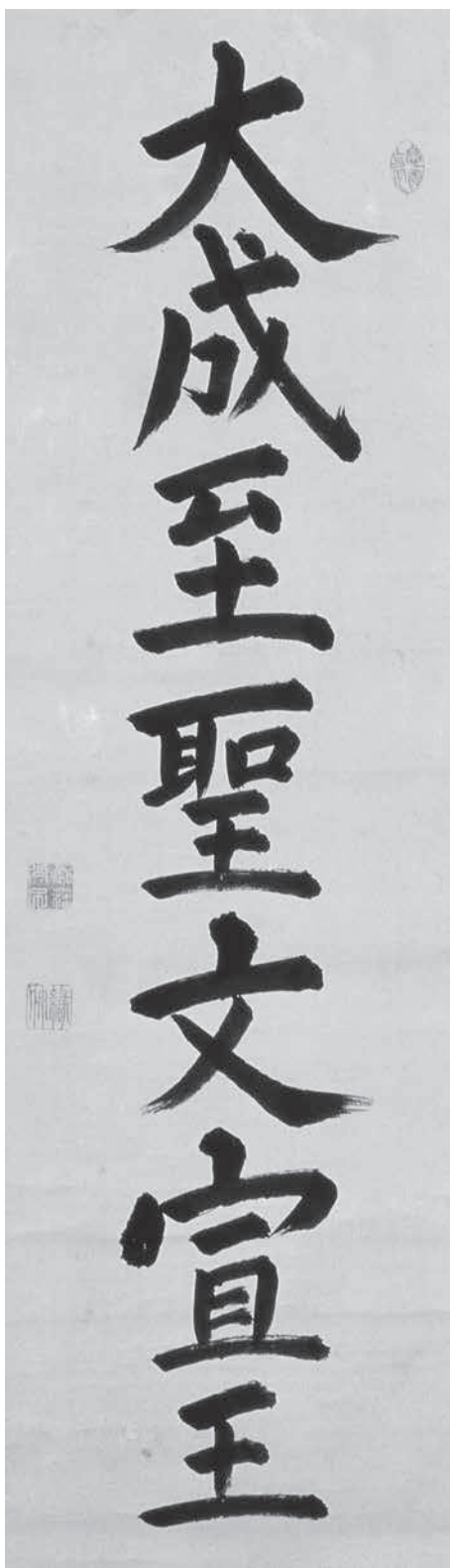
明治時代

紙本着色

1 幅

131.4×50.0 226-9

衣冠束帯姿の敬親像。同じ構図の世子・元徳像(資料番号48)と対幅。



44 毛利敬親書「大成至聖文宣王」

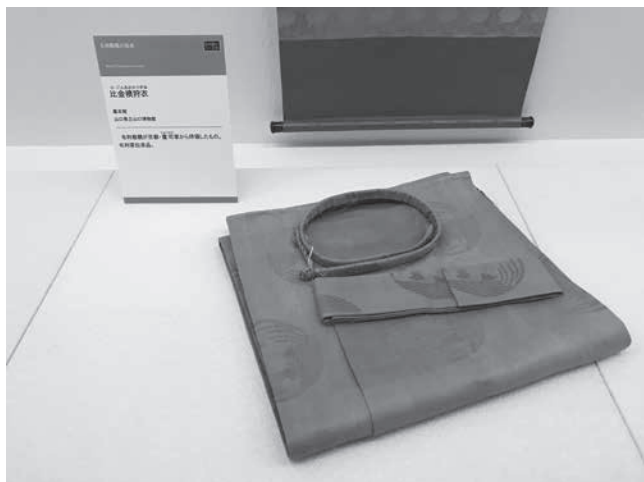
幕末期

紙本墨書

1幅

130.5×38.0 212-129

藩主毛利敬親が、山口講習堂(のちの山口明倫館)の上田鳳陽の求めに応じて書いたもの。春秋の「せきてん積奠」(孔子祭)の際に掲げられた。「大成至聖文宣王」は、孔子の諡。



45 ひ こんあお
比金襖狩衣

幕末期
1領
910-35

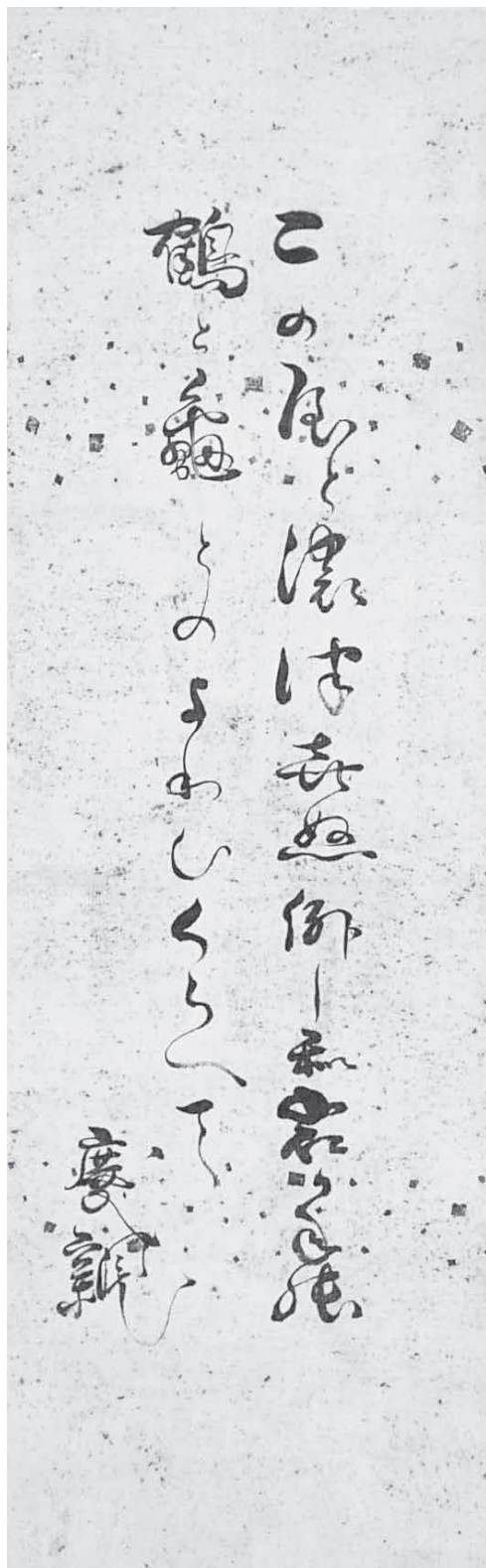
藩主毛利敬親が京都・鷹司家から拝領したもの。毛利家伝来品。



46 浅沓

幕末期
1口
底長24.5 910-39

浅沓は、束帯・衣冠・直衣・狩衣等を着用する際の履物。
毛利家伝来品。



47 毛利敬親和歌

幕末期

紙本墨書

1幅

134.0×34.0 211-21

このやとの つぎぬ例しわ 岩かねの

鶴と亀との よわひくらへて

慶親

48 毛利元徳^{もとのり}像

狩野松洲

明治時代

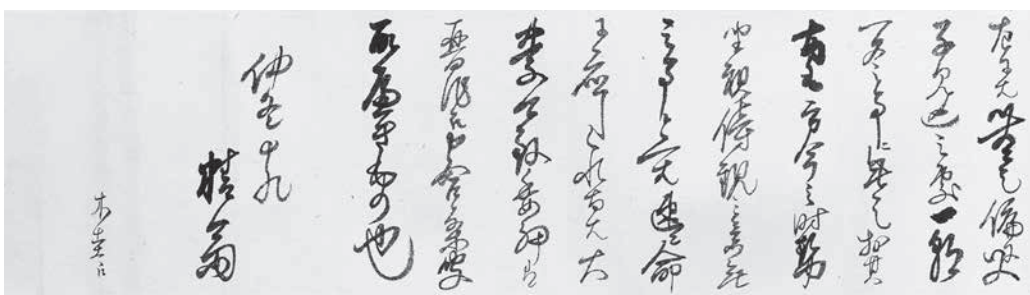
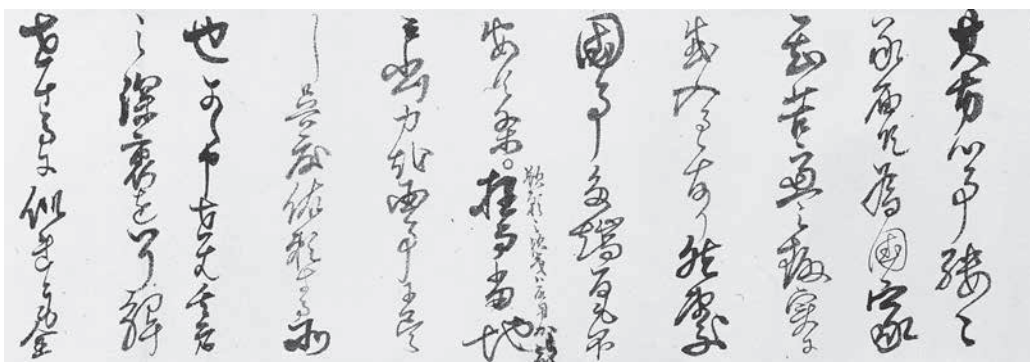
紙本着色

1 幅

129.5×49.0 226-8

毛利元徳^{ひろあつ さだひろ} (広封、定広、1839～96)は、支藩の徳山藩毛利^{ひろしげ}広鎮の10男。安政元年(1854)、藩主敬親の世子となった。諡から忠愛公と称される。明治2年(1869)家督^{ちゆうあい}相続後は、山口藩知事、貴族院議員を務めた。墓は、山口市の香山墓所(国史跡「萩藩主毛利家墓所」)。

衣冠束帯姿の元徳像。同じ構図の敬親像(資料番号43)と対幅。



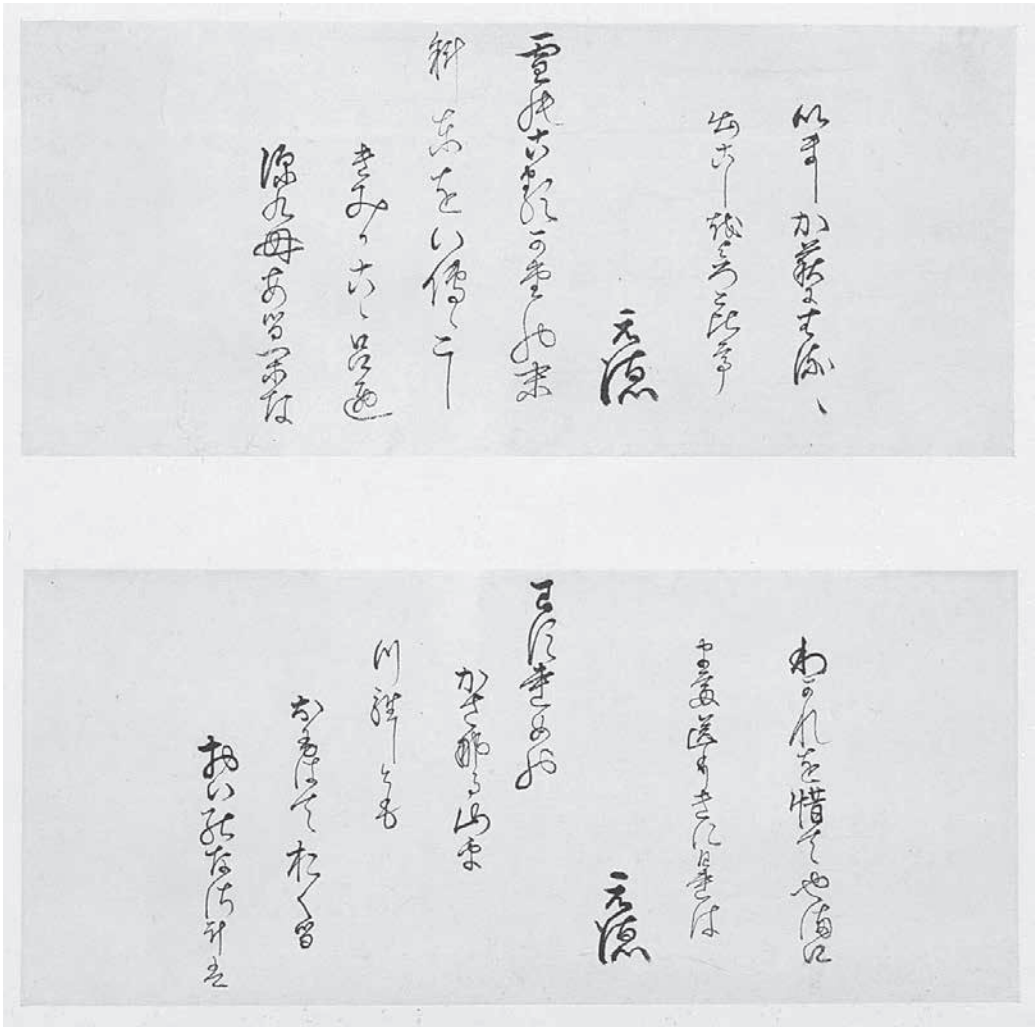
49 毛利元徳書簡 木戸孝允宛

文久3年(1863)11月19日

1通

15.0×102.0 木戸33

毛利元徳が、暇を願い出て萩で閉居していた木戸(桂小五郎)に、高杉を遣わして山口に出て^{じんすい}尽瘁するよう促した書簡。敬親・元徳ともに国事に奔走する木戸に大きな期待を寄せていた。「精斎」は、元徳の「木圭」は木戸の雅号。



50 毛利元徳和歌

明治時代(19世紀)

1 幅

17.4×40.1 211-85

いましか萩にはるばる出こしをよろこひて

元徳

雪のこるかたやまさとをいて、こし

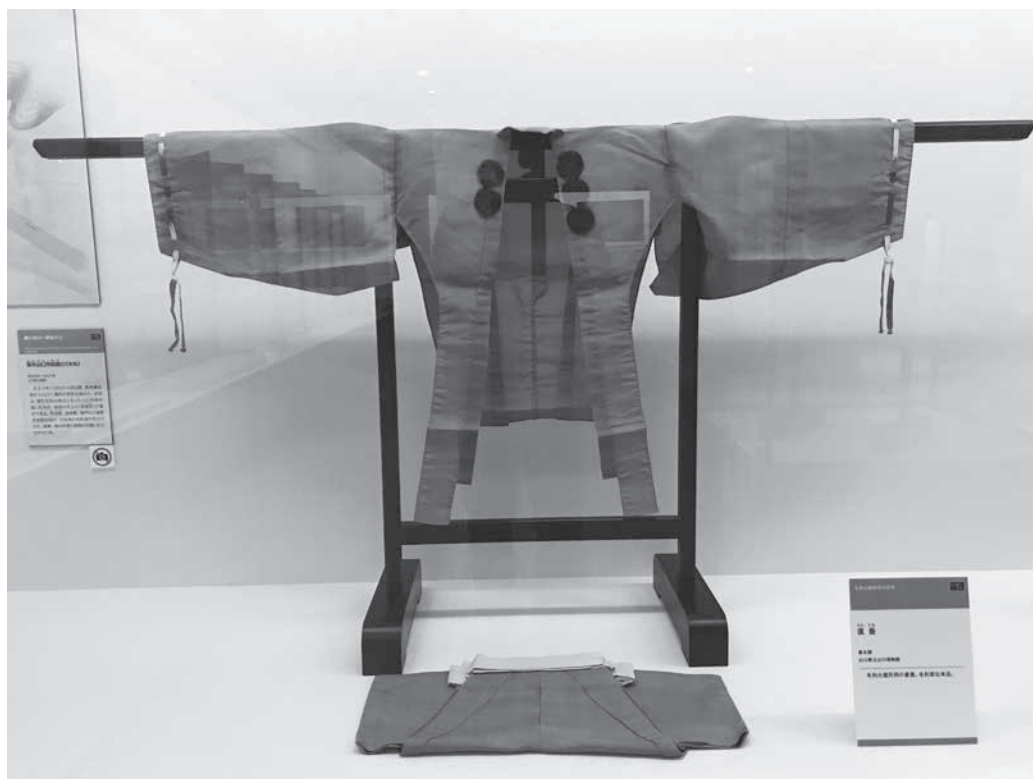
きみかこゝろに深くもあるかな

わかれを惜してやま口まで送りきたれば

元徳

わすれめやかさなる山平つらしとも

おもはておくるおいのなさけは



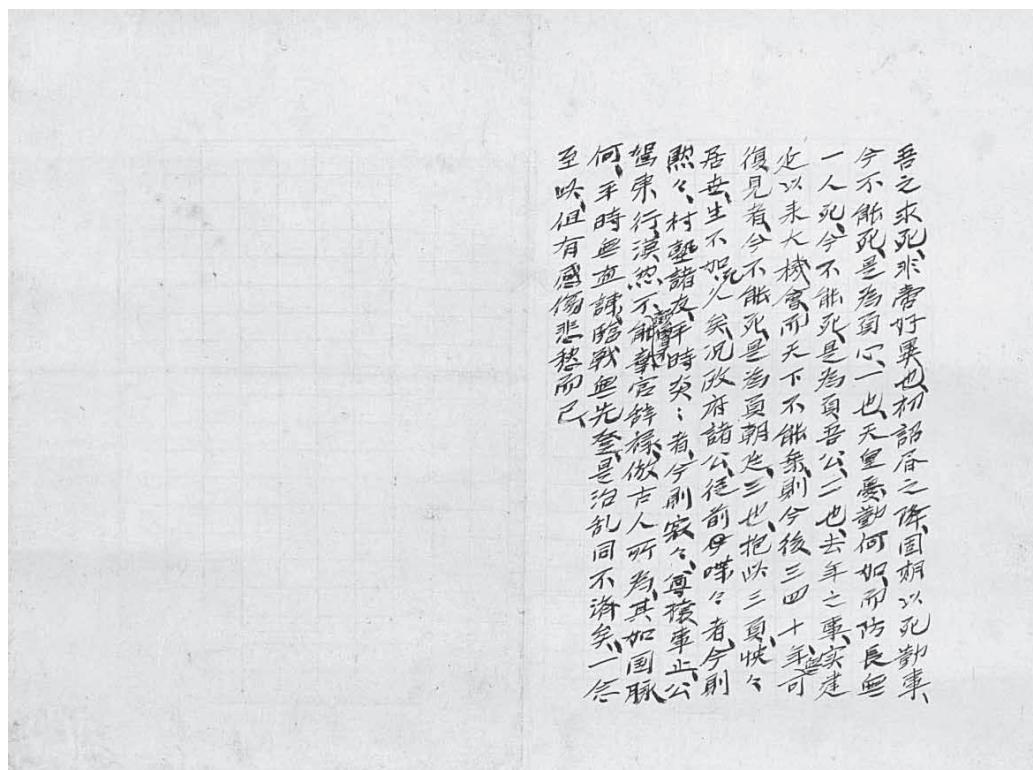
51 直垂

幕末期

1領

袖丈42.0 衿丈82.0

毛利元徳所用の直垂。



52 感傷之言

吉田松陰

安政6年(1859)3～4月

1幅

23.8×31.6 福本2

安政5年秋以来、松陰が天朝と藩のために一死を賭して画策したことがすべて失敗し、期待と信頼を寄せていた村塾同志もほとんど去らんとするなか、松陰の孤独と悲哀感を記したもの。



53 吉田松陰肖像

田総百山

明治時代

絹本着色

1幅

113.4×36.7 福本63

萩出身の日本画家・田総百山たぶさひやくざんが描いた松陰の肖像。

田総は、明治5年(1872)生れ。名は百合之助。森寛齋・橋本雅邦に師事。山口県立萩高等学校教諭を務めた。

本図は、松下村塾における講義中の姿を描いたもの。

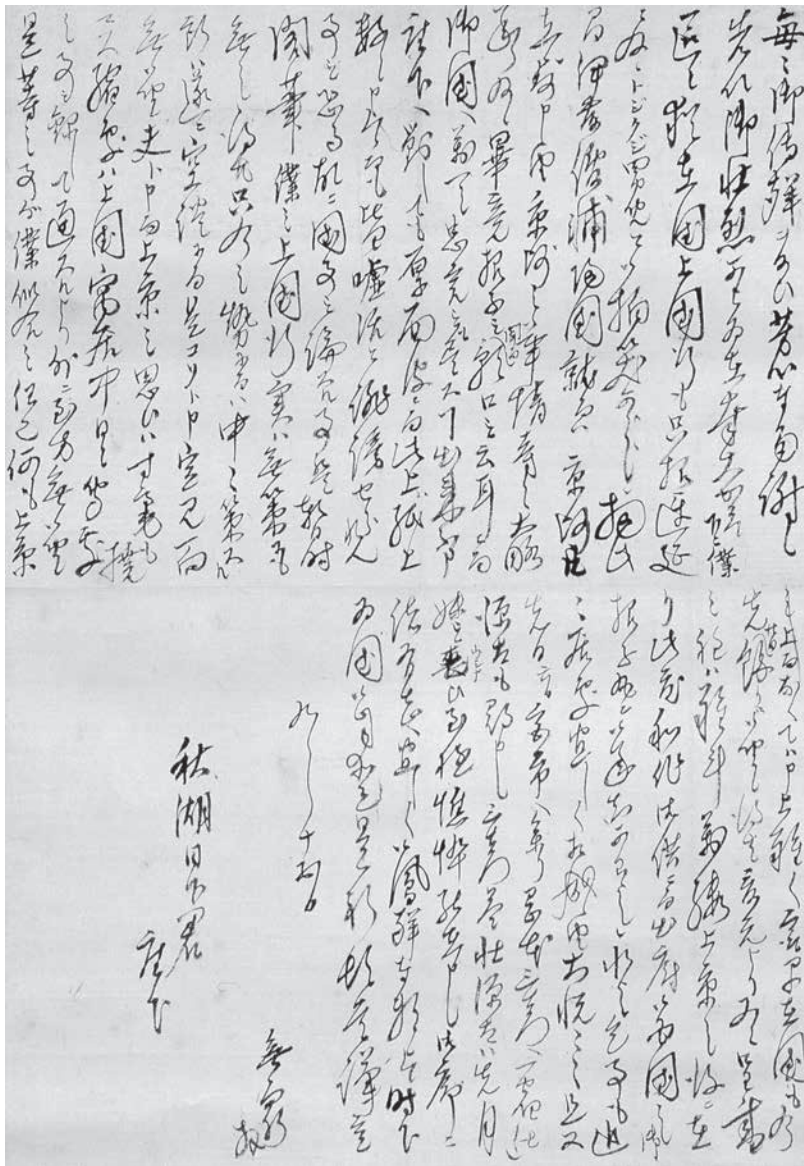


55 柳菊図

松浦松洞
幕末期
絹本着色
1幅

105.0×29.3 223-10 松浦松洞は、天保8年(1837)萩・松本村の商人庄之助の二男に生まれる。幼少から絵を好み、萩の礪西涯(羽様、宗四郎、1811-1878)に学ぶ。のち、京都に出て小田海僊に師事。

安政3年(1856)11月、松下村塾に入塾。尊王攘夷運動に奔走する。安政6年(1859)5月、師・松陰の肖像画を描く。文久2年(1862)4月、長州藩の重役で、「航海遠略策」を提唱した長井雅楽の暗殺を企てたが果たせず、京都・粟田山で自害。行年26才。墓所は、京都・霊山、萩・通心寺。靖国神社合祀。正五位。



56 松浦松洞書簡 久坂玄瑞宛

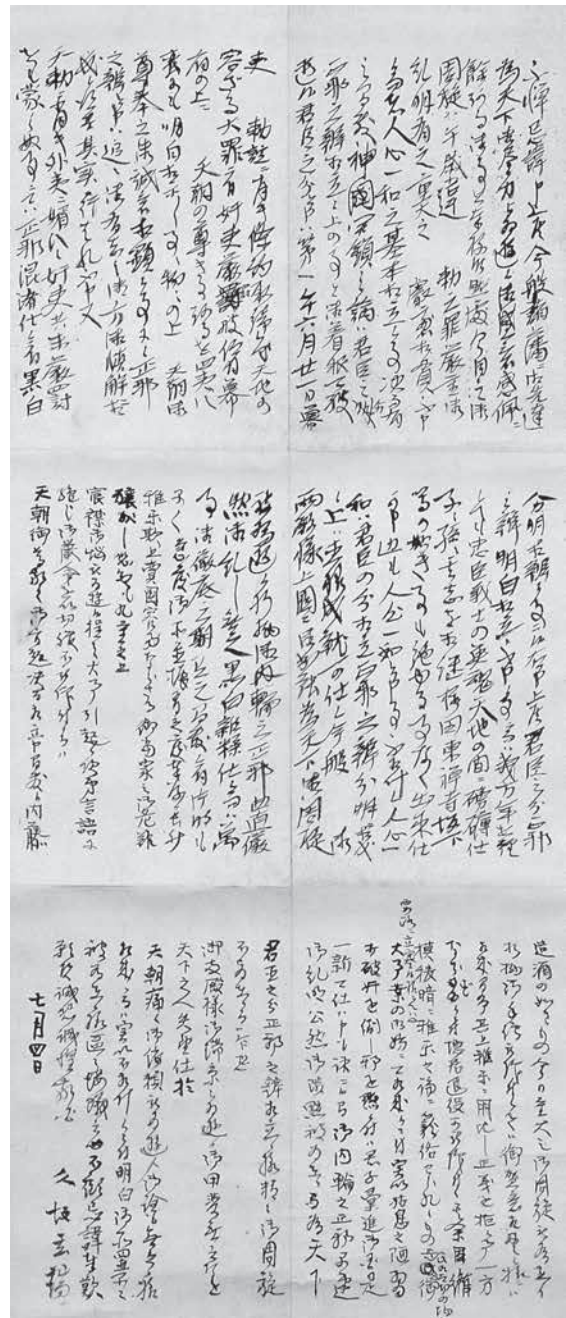
文久元年(1861)9月15日

1通

48.6×34.0 福本23

この頃、江戸にいた久坂は皇女和宮の降嫁を痛憤し、周布政之助とこれを阻止するため、上京して藩主敬親に建言しようとして画策していた。

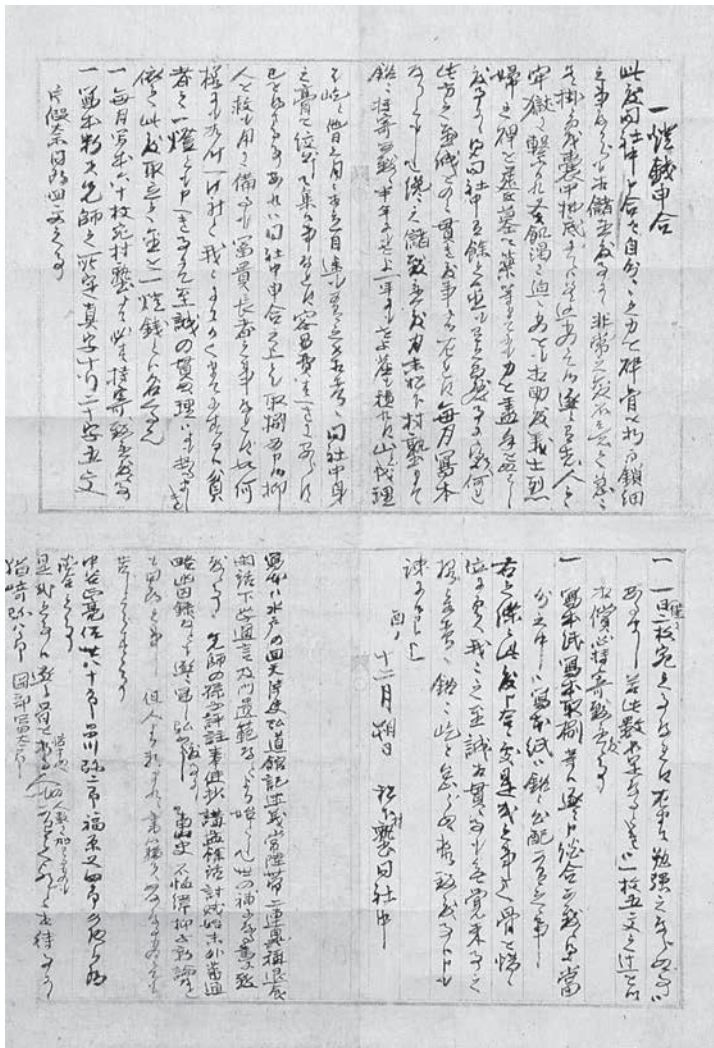
一方、萩にいた松浦は、自身の上京が遅れている状況を、己の無力を嘆きつつ久坂に伝えている。刻々と変化する政治情勢の中で、苦悩する松浦の心情がよく示されている。



57 長井雅楽弾劾建白書

久坂玄瑞
 文久2年(1862)7月4日
 1通
 69.2×29.3 福本6

文久2年(1862)7月3日、久坂玄瑞は長井雅楽の公武周旋策に反対し、長井の暗殺を企てたが失敗。翌4日、長井に対する弾劾建白書を藩へ提出した。本書はその草稿か。幕府、藩、朝廷を欺き混乱させた長井の行いは言語に絶し、「天朝御尊嚴の御旨趣」が立たないと訴えた。6日、藩は「破約攘夷」の方針を転換した。



58 一燈銭申合

久坂玄瑞

文久元年(1861)12月朔日

1通

445×30.5 福本 8

文久元年(1861)12月、久坂は松陰の「庸書檄」にならって、入獄同志の救済、義士烈婦の墓碑建設の費用を、写本料から積み立てる計画を立てた。本書は、その趣旨と写本の仕方などについて記したもの。これしきの事さえ骨を惜しむようでは我々の至誠を貫くことは覚束なく、屹と怠らぬようにと強く念を押ししている。



59 木戸孝允・^{きっかわつねまさ}吉川経幹写真

ウォルター・タルボット・カー撮影

慶応2年(1866)12月30日

鶏卵紙

1枚

7.5×6.3(9.3×6.7) 木戸53

慶応2年(1867)12月29日、長州藩主毛利敬親と世子元徳は、英国海軍キング提督と三田尻で会見した。翌30日、両名は旗艦プリンセス・ロイヤル号上に招かれ会見し、艦上においてキング提督と共に記念撮影された。この写真は、その際に同行した木戸孝允と吉川経幹を撮影したもの。ちなみに、この時の写真をもとに後年、E・キヨツソーネが毛利敬親(県立山口博物館蔵)と吉川経幹(吉川史料館蔵)の肖像を描いている。



60 毛利元徳・木戸孝允ほか写真

上野彦馬撮影

明治3年(1870)4月26日

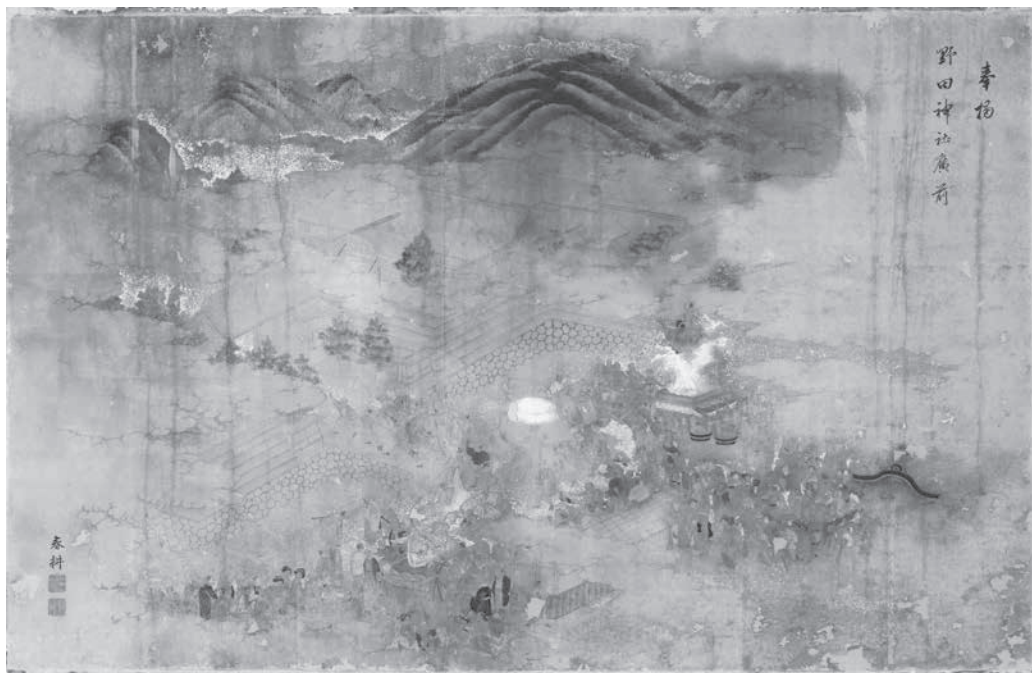
鶏卵紙

1枚

10.2×12.8(15.3×17.9) 小川一眞複写10.2×14.4(14.5×19.8) 木戸54

明治3年(1870)4月26日、山口藩知事時代の元徳が、鹿児島訪問の途中で立ち寄った長崎で随員と共に撮影したもの。前列左より、杉孫七郎、来原彦太郎(木戸孝正)、毛利元徳、清水清太郎。後列左より、兼常佐市、林万樹太、大中秀伯、高井尚三、木戸孝允、小笠原男也、長三洲、笠原昌吉、神代貞介。ちなみに、杉たちが着用しているのは西洋式軍服。右袖にある1本の白帯は、戊辰戦争時の長州藩(山口藩)の制式。

上野彦馬撮影のオリジナルと、小川一眞による複写版がある。図版は上野撮影のもの。



61 毛利敬親山口新御屋形入居奉祝図

山口県指定有形文化財

田原春耕

明治14年(1881)11月

紙本着色

春耕(印)(印)／〔裏面〕明治十四年十一月吉日 願主 大田七三郎 工師 阪根和藤治 表具師 布屋

1面

140.0×227.0

野田神社蔵(山口県立山口博物館寄託)

慶応2年(1866)5月15日、長州藩主毛利敬親は、落成した山口新御屋形(山口新館)へ入居した。本図は、その際の士民たちによる奉祝の様を描いたもの。図版は本紙全体。

画面中央には、新御屋形門前での多数の山車を練り出した奉祝の賑やかな模様が、同右下には、新館式台前に詰めかけて祝う人々の姿が描かれている。新館御門(「山口藩庁門」県指定有形文化財)と新館の建物ならびに周囲に巡らされた堀と土塁の状況を立体的に知ることができるものは他になく、明治期の旧藩主顕彰という山口の社会情勢を示す貴重な資料。

本資料は、明治14年(1881)11月、野田神社10年祭に関わって制作・奉納され、同社絵馬堂に掲げられていた。昭和2年(1927)3月、当館の前身である山口県立教育博物館へ寄託され、現在に至っている。同教育博物館では、寄託後すぐに展示されたようで、その紹介記事が、「防長新聞」(同年4月8日号)に掲載されている。



62 周布政之助書付並びに詩画

文久3年(1863)8月10日

1幅

30.0×42.0×2紙 周布④-236

周布政之助が、山口御屋形および周辺施設の基本構想を、絵図と簡条書きで記したものの。曲輪内の田畠と農民はそのまま、藩士や家来は曲輪外に移居を命じ、その屋敷を役所とすること。壕や砲台の建造を急ぎ、御屋形はその後に建造すること。学校は、山口講習堂を拡張して順次整備し、山口御茶屋は学校に充てるとしている。

前田孫右衛門(陸山)との席上で書いたものとみられ、山口大神宮や鴻ノ峰を題材に詠んだ周布の即興詩画が備わる。



63 御盃 藤花小禽

幕末期

1口

径12.4 高5.4

個人蔵(山口県立山口博物館寄託)

安政6年(1860)12月16日、藩主毛利敬親が、左近衛権中將に昇進した際、祝宴の席で拝領した長崎・亀山焼の盃。蓋裏に周布政之助自筆の箱書きがある。

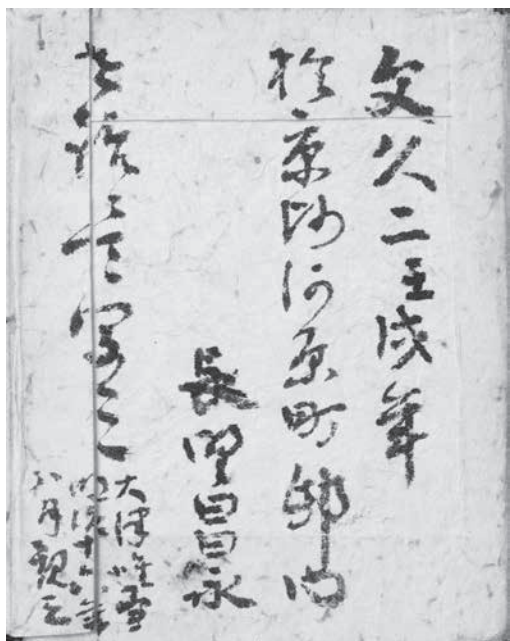




65



66



包紙

64・65・66 周布政之助写真

亀谷徳次郎撮影(推定)
 文久2年(1862)
 アンプロタイプ
 各1枚
 各11.9×9.1 墨書12.4×9.5
 個人蔵(山口県立山口博物館寄託)

64は、左が周布政之助、右は長州藩医^{ながのしょう}長野昌英。京都屋敷で撮影されたもの。包紙に「文久二壬戌年、於京師河原町邸内、長野昌永(英)世話にて写之、大津唯雪、明治十六年八月観之」との墨書がある。大津唯雪は、村田清風の次男。65は烏帽子姿、66は甲冑陣羽織姿の周布政之助。

アンプロタイプとは、ガラス板に乳剤を塗布し、塗布面に像を形成させて、実際には乳剤の塗られていない面の方から画像を見る形式の写真。



67 都風流トコトヤレ節

明治初期

木版刷

1面

18.5×50.3 920-145

新政府軍が錦旗を押し立てて進軍する模様を歌ったもので、わが国最初の軍歌といわれる。「宮さん 宮さん お馬の前の ひらひらするのは何じゃいな トコトヤレトコトヤレナ」のフレーズで知られる。作詞は品川弥二郎、作曲は大村益次郎といわれるが確証はない(『大村益次郎』参照)。本資料は、萩出身で、桂内閣の内閣書記官長や文部大臣を努めた柴田家門から山口県立教育博物館(現・県立山口博物館)へ寄贈されたもの。



68 井上馨写真

上野彦馬撮影

慶応年間(1865～68)

鶏卵紙

1枚

9.0×5.6(9.5×5.9) 木戸65



69 伊藤博文写真

上野彦馬撮影

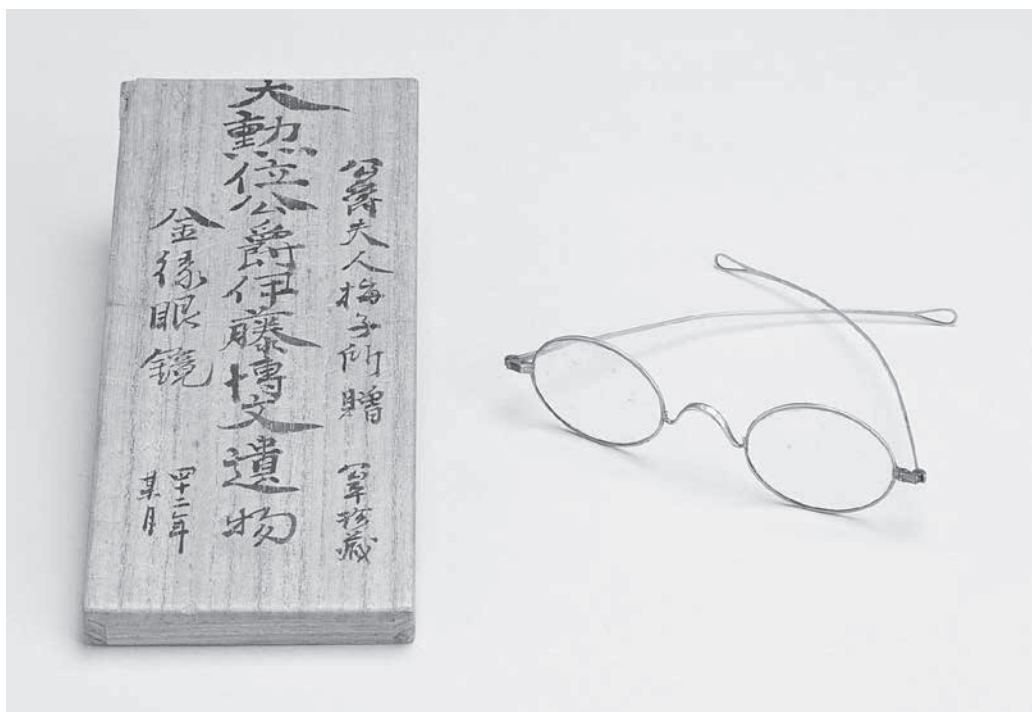
慶応2年(1866)4月頃

鶏卵紙

1枚

8.6×5.5(10.1×6.2) 木戸64

高杉らと3人で写る写真(写真右上、個人蔵)と同時に1人で撮影したものであろう。



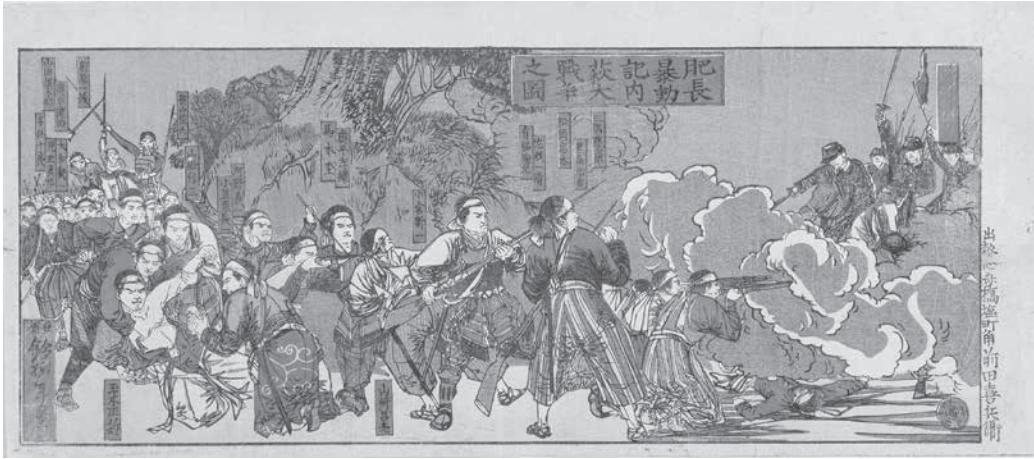
70 伊藤博文所用金縁眼鏡

明治時代

1口

幅12.0 周布③-16

伊藤夫人・梅子から周布政之助の嫡子・公平に贈られたもの。公平筆の箱書きに「四十二年某月」とあり、明治42年(1909)10月26日の伊藤博文暗殺後、程なくして周布の手に渡ったものと分かる。周布家伝来品。



71 肥長暴動記内萩大戦争之図

鈴木年基

明治10年(1877)2月1日

1枚

16.7×37.3 920-33

明治9年(1876)10月に始まる「萩の乱」の様を描いた錦絵。版元は、心齋橋塩町角前田喜兵衛。萩における市街戦が舞台で、右手から斬り込む討伐軍に対して、中央から右に、応戦する反乱軍の三隅藤次郎、栗谷元吉、松岡忠太、佐瀬一清、有福恂允、小倉新一、山崎昌亮、奥平左織、馬木杵、河野義一、小笠原長一、山県信三、横山俊六、左後方に前原一誠、奥平謙輔、山田颯太郎、大和観一、児玉真信、多林十良の名が見る。手前左に被弾して倒れる玉木正誼(玉木文之進養子)が描かれる。この事件に関して松陰の叔父・玉木文之進は責をとって自刃した。